

## 新規陽性者の発生動向

### (1) 大阪府の発生動向

- 緊急事態宣言発令以降、新規陽性者数は減少傾向が続いているが、一日平均約400名の新規陽性者が発生しており、高水準で推移。直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数は、31.73人とステージⅣの基準（25人）を依然、超過。シミュレーション（5/6時点）上の新規陽性者数減少速度より早期に減少。
- 全年代で新規陽性者数が減少傾向。
- 緊急事態措置適用の4月25日以降、人流が大きく減少し、推定感染日別陽性者数も大きく減少。

### (2) 市内・市外居住者の発生動向（週・人口10万人あたり）

- 週・人口10万人あたりの新規陽性者数は、緊急事態措置適用以降、市内・市外居住者ともに大きく減少。市外居住者はステージⅢ（15人）の基準に到達しつつある一方、市内居住者はステージⅣ（25人）を依然超過。特に10代～50代の市内居住者の陽性者数が極めて多い。
- 感染経路不明者の割合は、市内6割、市外5割であり、市中感染が依然多く発生。

### (3) 夜の街関連やクラスターの発生動向

- 新規陽性者に占める夜の街の関係者及び滞在者数、特に居酒屋・飲食店に滞在歴のある新規陽性者数は減少しているが、第三波緊急事態措置期間中ほどには減少していない。滞在エリアでは市内外ともに減少している。
- 陽性者のエピソードでは、3密のいずれかに該当するものや昼間の集まりでの感染事例も多くみられる。特に、会食は時間に関係なく発生。
- 4月25日以降、医療機関関連のクラスターが急増。施設数では大学・学校関連は減少しているが、施設関連や企業事業所関連に大きな減少傾向は見られない。

# 感染状況と医療提供体制の状況について

## 医療提供体制の状況

- 重症者数は5月4日449名をピークに減少しているが、**確保病床（224床）における重症病床使用率は129%（大阪モデル）と100%を大きく超過。**  
**軽症中等症病床使用率も依然、7割弱とひっ迫している状況が続いている。**  
緊急事態措置解除基準の目安となる**医療のひっ迫具合を示す分科会の各指標は依然、基準を大きく超過しており、第三波における緊急事態措置解除時（3月1日）の水準から大きく乖離。**  
(例 入院率 3/1 56.1%⇒5/24 16.4%、病床占有率 3/1 30.4%⇒5/24 68.2%)
- **新規陽性者数に占める60代以上の高齢者の割合は3割弱、60代以上新規陽性者数（7日間移動平均）は105名程度と依然、多い状況であり、引き続き、重症者数が一定数発生することが想定。重症者数の減少の推移は注視が必要。**

## 今後の対応方針について

- 緊急事態措置の効果により、新規陽性者数は大きく減少しており、**感染状況については改善している。**  
一方で、**重症病床・軽症中等症病床のひっ迫状況は、改善傾向にはあるものの、依然、極めて厳しい状況。**  
**病床使用率や入院率など医療のひっ迫を示す指標は、第三波緊急事態措置解除時点の水準から大きく乖離。**
- **今後、感染性が高い可能性があるインド株など、新たな変異株の流行が懸念され、また、夏に向けて恒例行事等による感染リスク機会の増大も想定されるなか、感染収束を確実なものとし、次の感染拡大に至る前に医療提供体制への負荷を十分に減らしておくことが必要。**  
**⇒府全域での接触機会の大幅な削減に向けた取組みの継続が必要。**